

幼児教育研修（人権 第3回）

受講者数258名

配信期間 令和4年6月22日（水）～7月21日（木） オンデマンド研修

講師 東京立正短期大学 現代コミュニケーション学科 幼児教育専攻 准教授 鈴木 健史 氏

【内 容】

人権を守ることは保育の根幹です。人格形成の基礎を培う乳幼児期の教育・保育を担う保育者は、自らの人権意識・人権感覚を振り返り、向上させていくことが重要です。子どもの人権を大切にする保育とはどういうことなのかを考え、乳幼児期の人権についての学びを深めます。

【受講者の感想】*** 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか**

- ・子どもにとって最善の利益とは何かを考えていく。保育者の言葉がけの重要性を理解し、自分の言葉に責任をもっていきたい。
- ・子どもは自ら学び、成長する力がある。保育者の決めつけや思い込みで子どもをみるのではなく、目の前の子どものありのままをみることが大切である。「承認・肯定・提案」をもっと意識して、子どもたちと関わっていきたい。
- ・日々の保育の中で起こる一つ一つの出来事、言葉、促し等について、流れ作業になっていないか、子どもの人権を尊重したものか、また子どもに寄り添っているかを常に意識すべきだと改めて感じた。
- ・子どもの「～したい」気持ちばかりに目を向けていたが、「～したくない」気持ちも大切にしなければならぬと気づいた。子どもの思いに一度共感し、受け止めてから提案へとつなげ、子どもに寄り添った保育を行っていきたい。
- ・先回りして失敗しないようにすることは、失敗の経験をなくしてしまう。むしろ間違えることで学ぶことがある。結果ではなく、過程が大切であることを学んだ。子どものしていることを尊重して見守るとともに、失敗が新しい発見につながり、前向きな気持ちになるように関わっていきたい。
- ・乳幼児期の関わりは人格形成の基礎を築き、子ども自身に自らの人権についての意識、感覚をもたせる重要なものである。まずは関わる保育者自身が人権について正しい知識を身に付け、それを実践していかなければならないと思った。
- ・人それぞれ「あたりまえ」は違うものなので、職員間の話し合いをもちながら、保育を見直していきたい。
- ・子どもが困った時に簡単に答えを出すのではなく、一緒に寄り添い付き合っていく。「困った」を「学び」に変えていけるような関わり方を心掛けていきたい。
- ・子どもの遊びや育ちを点ではなく線で捉える。結果だけではなく経験そのものに価値がある、寄り添ってもらえた、認めてもらえたと感じるための共感のプロセスを大切にする。「あなたならできると信じている。失敗してもよい。思うようにチャレンジしてみたら。」という思いをもって共に歩んでいきたい。